

「チャレンジ支援委員会」

2020 年度秋季大会報告

「わかばさんいらっしやい」 第1日目 12:10-12:55

担当：中山英治・大嶋智規・松本明香

本大会第1日目 12時10分から「わかばさんいらっしやい」が始まりました。今回は日本語教育学会初のオンライン開催の大会ということで、事前に「わかばさんいらっしやい」動画を配信し、わかばさんたちにはその動画を視聴した上で、当日 Zoom 上に集まっていただきました。動画では、大会の参加の仕方、楽しみ方を中心にお伝えしました。多くの方が視聴してくださり、初めて大会に参加するわかばさんの道しるべになったのではないかと思います。



当日のわかばさんの参加は計4名でした。人数は少なかったのですが、その分一人一人の教育実践や研究活動もお話しただけだったので、余裕を持って進行することができました。また、今回はオンライン開催ということもあり、海外や国内でも様々なところからご参加いただきました。

事後アンケートでは、「離れたところの方の話も伺えた」「情報量は適切だった」といった回答もあり、おおむね好評だったことが見受けられます。参加者は大学生・大学院生さんいれば、中には現場で実践をされている日本語学校勤務の方もおられました。いろいろな方たちに、大会での時間を充実したものにするためのステップをご提供できたのではないかと思います。初めてのオンライン開催の「わかばさんいらっしやい」企画でしたが、オンラインならではのいいところは今後も継続していければと思っています。

「ぷらさ da わかば」 第2日目 12:30-13:30

担当：櫻井千穂・三代純平・大平幸・家根橋伸子

日本語教育の世界で「わかば」な人に、先を歩く「センパイ」との対話の機会を提供する「ぷらさ da わかば」第9回目は、「オンライン」「センパイ公募制」「1対複数制」による初めて尽くしの実施となりました。7人のセンパイ1人当たりわかばさん最大3人、計21人までとして事前登録制により募集、8人のわかばさんの応募があり、セン

パイ1対わかばさん2が1グループ、他は1対1でのZOOMブレイクアウトルーム機能を利用した対話セッションとなりました。7つのブレイクアウトルームとメインルームにはチャレンジ委員が常駐し、問題発生に対応する体制を取りました。当日は、通信環境の問題でZOOMに入れなかった参加者、音声が入らないなどの問題が一時的に発生しましたが、事務局・メインルーム・ブレイクアウトルーム担当者が連絡を取り合って対処し、最終的に予定していた参加者全員にセッションに参加していただくことができました。事後アンケートではわかばさん全員から「とてもよかった」との評価が寄せられました。

課題として、まず、わかばさんの応募が予想より少なかったことがあげられます。オンライン事前登録制の影響が考えられ、応募方法を改善するなど、今後検討が必要です。オンライン実施については、アンケートではわかばさんは肯定的でしたが、センパイからはオンラインの利点とともに対面実施を推す意見が複数ありました。オンラインでは終了とともに交流が遮断されるため、終了後の交流の時間を取ってほしいとの意見もあり、今後のオンライン実施では活動構成に工夫の余地がありそうです。「1対複数」という形態については、今回2名を担当してくださったセンパイがうまくコントロールしてくださり、わかばさんたちも状況を理解してくださったことでスムーズな対話となったものの、アンケートではセンパイご自身から十分に対話ができなかったのではとの言葉がありました。

初めて尽くしの実施でしたが、多くの方々の協力のもと、参加者みなさんに喜んでいただく形で無事終了できました。次大会もオンライン開催となりますが、今回の経験を踏まえ、「わかば」さんたちに貴重な時間を提供するこの企画を発展的に継続していきたいと思えます。



総括

チャレンジ支援委員会委員長：嶋津百代

チャレンジ支援委員会が大会で事業を担当して早数年、わかばさんを支援する黄色いハッピーもようやく認知されるようになりました。ところが2020年は、チャレンジ支援委員が黄色いハッピーを着て、対面で皆さんにお会いすることはできませんでした。ただ、上記の報告にありますように、今大会で初のオンライン開催となった「わかばさんいらっしゃい」も「ぶらさ da わかば」も、参加してくださったわかばさんやセンパイのおかげで、非常に充実したものとなりました。オンサイトであってもオンラインであっても、チャレンジする人を支援するために、わたしたちはチャレンジ精神を失いたくないものです。今後ともチャレンジ支援委員会を、どうぞよろしくお願いいたします。

以上